京城日報

畏し・わが新兵器を天覽
特に民間關係者も召さる

【東京電話】畏くも 天皇陛下におかせられては大東亞戰爭下特に[illegible]

[illegible]本日宮城内において[illegible]射機關砲などの新兵[illegible]のみならずこれら兵[illegible]間會社の當事者にま[illegible]

[illegible]技術研究所長の御説明にて天覽あらせられた、次で主馬寮[illegible]場に御愛馬を進めさせられ再び下御、同廣場に陳列の野戰高[illegible]

天皇陛下防空兵器を天覽あらせらる
(主馬寮廣場にて謹寫・宮内省下貸・謹電送)

深く光榮を銘肝
木村兵器本部長謹話

[illegible]の御説明にて暇次御下問あらせられ御感[illegible]陛下には一時間餘[illegible]五分同所御發、天機[illegible]

[illegible]の光榮に浴し陸軍[illegible]の如く謹話した[illegible]は大東亞戰爭下特に[illegible]

[illegible]ない次第であります[illegible]ては防空兵器の發達[illegible]り、從ってこれら防[illegible]より、その他の各種[illegible]しても深く本日の光[illegible]るを痛感し、ますま[illegible]す研究努力もって大御心の萬分の一に報い奉らんことを期する次第であります

社説 "内鮮兄弟の道"に就て

一

半島を出で約一ケ月、天顔に咫尺し奉って所管せるところに就てその事情を奏上し、種々の有難き御下問を拜するの光榮を擔ひ、また伊勢、橿原、熱田の神宮に參拜、神前に額づいて決戰下に於ける半島としての完全なる使命達成の熱意に[illegible]御守護あらせ給へとの祈念を捧げ、伏見稻荷に參拜しては、これま[illegible]年こそは五穀豐穰の秋を迎へしめ給へと祈願し、更に滯京中は寧日なき活躍を續け、夥しい成果と、新らしき抱負とを携へて歸任した小磯總督は、その車中において"内鮮一體"を述べ、"兄弟の道"を明らかに示さうとしてゐる。これによつて我等は、總督の精神的なる一面に觸れ得たのを欣びとするものである。

二

總督は"朝鮮統治の根本方針は二千五百萬同胞を眞の皇國臣民として、精神的、物質的向上をはかり、半島をして八紘爲宇の國是に邁進する日本の强力なる一翼たらしめる"にあると前提してゐるが、この言葉は幾度繰返されてもそこから眞理を酌みとることが出來、新らしい響きを聞くことが出來る。それは、他に道があるとは信ぜられないが爲である。從つて、この動かすべからざる哲理も、數千年に亙る歷史と傳統を考慮に置き、半島同胞を眞の皇國臣民として育て上げるには、一定の時間と[illegible]らざる方法とを必要とするのであつて、總督の說く兄弟の道こそはそれを明らかに示したものであると思ふ。

三

半島に義務教育制が實施されんとし、光榮ある徴兵制が發表され、更に山本魂に續き得べき現實の道として海軍特別志願兵制度が布かれた。政治的には、總督政治の實現以來、内鮮一體と云ひ、皇民化と現はれ、半島同胞は廣大無邊なる恩澤に浴してゐる。これ等を、日常生活の上にまで具現し、身近なものとして感ぜしめる爲には、一般國民が半島同胞と一體の姿を以て生きて行くべきである。政治がどのやうに立派に行はれ、半島同胞への愛情を示す方策が樹てられても、在半島の内地人が隣人愛を忘れ、内地の人々が、半島より行きて働く人々を溫く抱きとり、正しく指導せねば、總督の熱意も一般に滲透するのがおくれるであらう。

四

小磯總督が"協力結集の實をあげたい"と希望してゐるのは、卽ち上下一致の心を以て、一般國民がよく總督政治の妙諦を認識し、これに應じて起つの心構へを以て、國民的な固い交りを結び、眞の兄弟としての愛と信頼に生き、水も洩らさぬ結束によつて決戰下の要請に卽應するの體制を固めよと述べてゐるものと理解し、内地人たるもの日常の些末なる言動をもいやしくもせず、總督政治への寄與を全うせねばならない。支那事變勃發以前、支那から日本内地に留學した有爲の青年が、歸るや否や反日陣營に赴くといふ例が多くあつた。これは、一般國民が支那留學生を正しく待遇し得なかつた爲めかとも批判されたが、内鮮既に血肉をわけた兄弟であり、そのことはないと信ずるが、同じ轍を踏まぬやう自戒すべきである。

ルッセル島戰果の意義

我が海軍航空部隊の海鷲大編隊は、七日ルッセル島を强襲し、敵機四十九機を擊墜破し、敵が反抗意圖を粉碎すると共に、その戰力をも擊滅した。戰闘機同志が行ふ空中戰としては最も熾烈なものであつたと報ぜられるが、この大戰果たるや、單に敵四十九機を失はしめたといふにとゞまらず、如何なる方面より、如何なる方法をもつてするとも、皇軍には微し難く、我が占領地の奪取は斷じて成らず、まして帝國本土を狙ふ餘地などはあり得ないのを米英に知らしめたものであつて、その意義は極めて大であつたといはねばならない。

南太平洋に輝く大戰果
擊墜破二八一機
地上火器 三ケ月間の猛威

大本營發表【六月十日午後五時】南太平洋方面帝國陸海軍部隊は地上火器に依り本年三月一日以降五月末日迄に敵飛行機に對し次の損害を與へたり

擊墜 二四九機 擊破 三二機

想へ、熾烈の血戰場
敵も必死、執拗の反攻

【東京電話】南太平洋方面における航空決戰は日毎に熾烈を極め執拗に反攻を企てる敵航空陣營に對しガダルカナル島轉進後布陣完璧のわが陸海軍航空部隊は積極的に敵前進基地に出擊すると共に敵の來襲を邀擊してこれに大打擊を與へてゐるが、わが陸海軍の地上防空火器部隊は航空部隊と極めて緊密なる聯繫のもとに敵米空軍の晝夜を分かたぬ來襲を邀擊、これに蔵大な打擊を與へてゐる

この地上火器部隊の航空戰果は十日はじめて大本營から發表されたこれによれば去る三月より五月までにおける滿三ケ月間にわが對空火器は獨力により敵機二百四十九機を擊墜、卅二機を擊破したこの事實によつても判る如くわか高射砲その他の對空地上火器の威力性能は開戰當初と格段の進歩を示し、そのため敵米空軍はわが高射砲の威力圈内には侵入せず、その外延附近を遠捲きするのみにして敢てこれに寄りつかぬといふ弱腰ぶりを見せてをり、また敵の捕虜が悉くわが高射砲の威力に驚歎してゐる事實からも敵が如何にわが地上火器の威力に畏ってゐるかが明白である

南太平洋のニューギニヤ、ソロモン方面への敵機の來襲は二月以降一月に約百六十四回内外、延數にして一千六百機内外に及んでをり、わが前線基地の將兵が晝夜ぶつ通し、何時終るかも知れぬ敵米空軍の執拗なる襲擊に一瞬といへども心許せぬ緊張の中に極めて困難な對空防衞態勢を常に堅持し南方地域のあらゆる惡條件をよく克服して全彈必中の確信に燃えて、かゝる大戰果をあげてゐる

しかも敵機は被害が多くなると遠間を避けて夜間を狙つて來襲するが、わが的確無比な對空砲火に恟々たるかれらは高度の上空から爆彈を落せばそのまゝ倉皇として遁走するが常である、中には勇敢なる敵機は有利と見るや機首を翻へしてわが陣地に突入、機銃掃射に出づるので地上火器部隊は一分一秒たりとも油斷が出來ない狀態である、對空射擊に瞬時でも弛みがあればスピードにものをいはせる敵機は直ちに逃避する、正に彼我の攻防戰は喰ふか喰はれるかで空中戰の際當りにも匹敵すべきものがある、地上火器部隊が擊墜破した敵の主なる機種は左の通りである

グラマン B38、B39、B40、A20爆擊機 SBD、B25、B24、B27、F4U、DBF

南方全諸島 敵機擊墜地點

【東京電話】十日大本營より南方戰線に於いて三、四、五の三ケ月間に地上砲火により敵機二百四十九機擊墜、卅二機擊破せる旨發表されたが、その地點を示せば次の如くである

ムンダ(ソロモン群島ニュー・ジョージヤ島)ブイン(ソロモン群島ブーゲンビル島東南端)レカタ灣(ソロモン群島イサベル島)コロンバンガラ島(ソロモン群島)ショートランド島(ソロモン群島)カビエン(ビスマルク群島ニュー・アイルランド島)スルミ(ビスマルク群島ニュー・ブリテン島)ラル(英領ニューギニヤ)サラモア(英領ニューギニヤ)ミミカ(蘭領印度ニューギニヤ)バモ(蘭領印度ニューギニヤ)ドボ(アラフラ海アル諸島)トアル(アラフラ海、ケイ諸島)サムラツキ(アラフラ海タニンバル諸島)アンボン(モルツカ諸島、アンボイナ島)

などでいづれも敵が最新鋭を誇る戰闘機、爆擊機である

外立岩治中將陣歿
わが陸軍通信の權威

【東京電話】外立岩治中將(熊本市清水町室園)は去る一月廿六日緬泰國境附近で陣歿した、享年五十二

同中將は大正十四年陸大卒・昭和九年名古屋師團參謀を經て同十三年三月大佐に進級、同年十一月北支河北省における戰鬪には外立支隊として勇名を轟かせた、昭和十六年三月少將に進級、在滿部隊長を經て同十七年九月南方第一線部隊長として活躍した、なほ同中將の戰死を痛惜して同期生航空本部總務部長遠藤三郎中將は語る

外立中將は古くから通信の權威者で、わが陸軍通信のために盡された功績は實に大なるものがある雄渾極まりない大東亞戰爭の稀想をさつと考へて見ても如何に軍の中樞神經である通信の重要さがものをいつたかが判ると思ふ、此の重大なる決戰下に中將の如き斯界の權威を要することが切なる時に當り陣歿せられたことは國家のため返すく゛も痛惜に堪へない

日に三機强
擊墜破の月別内譯

【東京電話】大本營發表による南太平洋方面わが陸海軍部隊の地上火器による敵機擊墜破の月別内譯は次ぎの通りで、一日平均三機强の擊墜破となつてゐる

	擊墜	擊破	計
三月	九四	一二	一〇六
四月	七六	五	八一
五月	七九	一五	九四
合計	二四九	三二	二八一

戸籍整備對策委員會

十九年度より實施される半島人の徴兵制に萬全を期すべく、先きに設立された朝鮮中央戸籍整備對策委員會第一回會合は十日午前八時半から總督府に開催、委員長田中政務總監以下總務局長(代理美根監察課長)新貝司政局長、財務局長(代理岡村管理課長)警務局長(代理磯崎警務課長)早田法務局長、宮本覆審法院長、金子地方法院長、高京畿道知事、古市京城府尹、波田聯盟總長ほか各委員、幹事、書記等廿八名出席、國民儀禮ののち田中委員長挨拶、早田法務局長の說明報告に次いで協議事項に入り一般民衆をして戸籍及び寄留の届出を勵行せしめるための具體的方策として

一、啓蒙運動を强化徹底せしめる
二、愛國班の機構强化の必要
三、民衆をして届出を容易ならしめるための措置
四、戸籍寄留の届出と物資の配給とを關聯せしめること

などを協議、引續き警務局、司政局、學務局、總務局、總力聯盟各關係方面から希望意見の開陳あつて同十一時散會した

貴族院議案審査會

【東京電話】貴族院調査會の政府提出議案に對する第二回事前審査會は十日午前十時より院内に第三部會を開き、内務省古井地方局長より同省所管事項に關する說明を聽取質疑應答をなし正午散會した

内閣辭令(十日)

特命全權公使(北支)鹽澤清宣
敍高等官(一) 航空局部長 仁村俊
(依願免本官)

片肺で奇蹟の生還
が島夜間攻擊の五若鷲

【〇〇基地にて日野(藤)海軍報道班員發】海軍記念日、この日この基地でも〇〇海軍航空隊が伊勢神宮を拜し、海相參拜の時刻を期して『戰勝祈願遙拜式』を擧行し、式後、部隊長から〇〇兵曹以下五名の若鷲を表彰した、これはガダルカナルの夜間攻擊に際して愛機に敵彈數十發をうけながらもよく奮戰、遂に片肺となり自爆かと思はれた飛行機を見事操縱し續けてやうやく基地へ生還した、その神技と兵曹以下が燃やした不屈の鬪魂を讃へたもので、愛機には八十餘ケ所の敵彈をうけ、しかも片肺で〇〇浬の夜の洋上を基地まで歸る兵曹たちにとつて頼りとするのはたつた一つの右發動機、これが力ない回轉音を出した時愈々洋上への不時着を覺悟してゴムボートまで用意しながらも『飛んでくれ、止まらずに』と手を合せて拜んだといふ、以下は〇〇兵曹の手記であるが、その胸底に燃ゆる烈々たる『海鷲魂』は强くわれらの胸を打つ

不屈・海鷲の鬪魂
—〇〇兵曹手記—

吹ッ飛べ、鬼畜米兵

自分はガダルカナルの上空へ來ると何時でもあの鬼畜のやうな米兵を想像し散つて行つた戰友たちの無念を偲んで狂はしいほどの敵愾心にかられる、もう何回かこの上空を襲つたが、これだけは自分ではどうすることも出來ない衝動である、そして爆彈の一發一發を落すごとに『これで吹つ飛べ』と心に念じるのだ、爆擊を終つての歸途傍らにゐた〇〇兵曹から『吹つ飛べとはなんだ』ときかれて苦笑したこともある、戰死した戰友たちへの空からの復讐だと思ふと自分は何時でもこのやうに冷酷な人間となり、まるで別人のやうになつてしまふのだ

あの晩もうすぐガダルカナルといふ地點で暗い風防の外に醜い米兵の顏が走馬燈のやうにちらつき半弦の月明りに照されてこ奴がにたく笑つてゐるやうな氣がする、そいつが何時までも追ひついて來て離れない『畜生』と遮二無二奴を追つかけてガダルカナルの上空へ突入した、下には罪惡と密林が生ひ茂つてゐる

光の海、敵探照燈

北西寄りに〇ケ所の飛行場が點在し滑走路がはつきり照し出されてゐる、その一つの第二飛行場では今しも夜間飛行の準備中らしく滑走路の兩側にずらりと幾つもの裸火が點燈されて並んでゐる、自分はこれを攻擊目標として指揮官機と分離した、そして戰機爆擊進路へ入らうとした時さつと眼前に大きな光芒が閃めいて目がくらんだ、目が痛い、敵の探照燈に摑つたのだ、すうつと音もなく倒れかかつて來る巨大なる光の柱、それが前後左右からだかつて來る、遂に愛機はその白い腹を曝して『光の海』を泳いでゐる

出來るだけ頭を下げかすんだ目を直さうと大きく二三度まばたいて見た、風防からは强烈な光が射込んで來る、自分は方向舵を踏んで兩足の靴尖を見たり計器盤を覗いたりしながら靜かに突擊の命令を待つた、この間に敵探照燈光芒はますく、その數を增して林のやうに十數本が集つてゐる、眩しくて月も星も見えないが爆擊の目標はすでに照射される以前に見定めておいた、間もなくその目標の眞上かと思つてゐると待ちに待つた指揮官機からの突擊命令が來た

火を吐く左發動機

偵察員の〇〇兵曹が全彈を投下した氣のせゐか、今夜は爆管の音が何時もより大きく聞えるやうだ『爆擊終了』基地へ報告してから身も心も輕々とした、早く探照燈から避退しなければ投下彈の戰果が見えない『よし突込むぞ』と誰に聞かせるでもなく大きな聲を腹の底から絞り出して力一杯操縱桿を前へ押すと愛機はグーンと唸つて機首を下に向け〇〇ノットに增速する、兩翼が千切れて飛んでしまふのではないかと、思はず風防を覗くとまたも强烈に眼を射られる、急いで二、三度瞬いてから操縱桿をひくと、さすがの探照燈も遂に追尾出來ないと見え、一本離れ、二本取り殘されてもう愛機を照してゐるのはあと數本だけ『ざまアみろ』と後を振りかへると、いきなり黑い物が頭上をかすめた

それと同時に異樣な衝擊が二、三度傳はつて來た『やられたなツ』と直感した、ピー38がさつとかすめて射つて來たのだ、左發動機が火を吐き燃料パイプと油管がやられてゐる、そのうへ後尾を射拔いた彈が機内で炸裂、射手の〇〇兵曹が左足首を碎かれてゐる『自爆か』と思つたが、戰果が氣がゝりでならない、基地へ戰果を知らせるまでは自爆してはならないのだ、何のための攻擊ぞ、このまゝでは死に切れないと氣を强くもつたのはこの時だつた

我空戰中被彈あり

敵地へ進入の時、あれほど多くの探照燈を照射しながら、地上砲火を一發も應たなかつた敵である、當然戰鬪機位は舞上らせてゐることだらうと感づいてはゐたが、幸ひ發動機の火は消えた、その代りプロペラの回轉が停止してしまつた、搭乘整備員が必死に調整してゐるが廻らない、機内には異樣な緊張が漲り、皆が自分の顏を覗きに來る『今自分が少しでも顏色を變へたら、皆はがつかりするだらう、大事な場面だ』と答へて『大丈夫だよ、大丈夫だよ』とわざと二、三度首肯いてみせた、かうしてゐるうちも片舷で飛んでゐるのだ、高度が下つて仕方がない、揚げ舵をとつても、とつても愛機には通じない

その時敵戰鬪機はまた第二擊を加へて來た、擊たれても、擊たれても墜ちるものか、これで墜ちたのでは徒らに敵兵共を喜ばせるばかりではないか『墜ちてはならんぞ』と我とわが心に期して飛びながら『我空戰中、負傷者一名、被彈あり』と基地へ報告させた

更に我片舷飛行中

やうやくにして敵の探照燈から離脱した時は敵兵の頭上〇〇メートルまで降りてゐた、生も死もない、たゞ夢中で突込んでゐたのだ、空戰が終つて歸投針路に入つたが、こゝから基地までは〇〇浬、片舷でもこの調子さへ續いてくれればどうにか飛んで歸れさうだ、是が非でも歸らう『我片舷飛行中』の無電を打ち手のあいた乘員は薄明るい日光を頼りに代るく負傷者の手當に當つてゐる

血のついた手で止血帶を結んでやつてゐる〇〇兵曹はたは言を口走る負傷者に『我慢しろよ、もうすぐだ、大した傷ぢやないぞ』とすかしてゐる、負傷者の氣力が劣へ、めいりさうになると〇〇兵曹は『この野郎』と大きな聲を張りつけながら、負傷者の頰を擲りつけたりしてゐる『可哀さうに』と思ふが、めいらせてはならぬのだ

口笛を吹く〇〇兵曹

今愛機は列島線上を飛んでゐる、この下は皇軍占領下にある島々にいとも近いから、不時着すれば出來ないこともなからう、しかし飛行機は傷めるかも知れぬが、人命は助かるかも知れない、いやく、もしも海岸に岩でもあれば助からないかも判らない、それよりも軍醫官のゐる自分らの基地へこの負傷者を元氣で連れて歸りたい、もう少し飛ばうと決心した時、八木師の上手な〇〇兵曹が口笛を吹きながらサイダーを拔いてゐる、パイン罐も切つた、そして皆に分配しはじめた

ぢつとうつむいてゐる皆に『お喰へ、腹が空つては戰さにならないぞ』とおどけた物腰で食べさせてゐる、自分は機長としてこの時ほど有難かつたことはない、この人がゐれば大丈夫だ、結構基地まで持つてゆけると思つた、こんな場合皆にめいられたり、平靜を失はれるのが一番恐しいことである

異樣、右發動機の音

いよく遠島線を外れ〇〇海峽の洋上へかゝつてから〇〇兵曹が自分にもサイダーを飲めと持つて來た、その時兵曹は自分の耳へ口を押しつけ『大丈夫か』と訊かれた『うん』と頷くと兵曹はほつとして『ゴムボートを用意してある』といふ、自分ははつとして兵曹を凝視した『落ちるものか、どんな事があつても』と心の中に叫びながら兵曹の顏を見ると先までの表情とどこか違つてゐる、その時殘る一つの右發動機が微かに異樣な音を立てた、ぶすぶすといふ力のない音だ

八木師兵曹はさすがに搭乘整備兵曹だつた、自分より逸早く發動機の回轉音を讀んでゐたのである、海面までは〇〇メートル、瞬間ならぬ低高度、進んでも退いてもとても基地までは〇〇浬もある、八木師兵曹が用意したといふゴムボートのことが一瞬さつと閃いて地球に引力のあるといふことがうらめしい

奇蹟、發動機好調へ

『〇〇上空飛行困難』の無電を打つべく書いた紙片を電信員に渡してからは一同洋上への不時着を覺悟する、そして運命を天に委して飛んでゐると、おゝ奇蹟、發動機の回轉音が好調を取戾したではないか、ゆるい速力ではあるが愛機は依然として飛んでゐる、落ちてはゐない『もう少しだ、止まるなよ』ふと氣がついて見ると自分はがりく齒軋りをしてゐる『この尊い人命と一億同胞の汗の結晶である飛行機を失つてたまるものか』さう獨言をいつた、自分はそつとあとを振向いて見ると月光に照らされた八木師兵曹の顏が[illegible]

遂に〇〇基地の大地へ車輪を觸れた、救急車で迎へに來た軍醫官に負傷者を渡し、愛機の點檢を終つた自分はその夥しい彈痕と發動機の彈孔を見て意氣地なく涙が出て仕方がなかつた、基地の戰友たちが火をつけて渡してくれた煙草さへどのやうにして吸つたか知らない、乘員をここまで連れ歸り尊い國家の飛行機をも失はないで歸つて來たのだ『有難うく』自分は今でもこの飛行機を見る度に手を合して拜んでゐる

消息

◇伊藤四雄氏(京城府會副議長)新任挨拶のため十日來社
◇中村郁一氏(京城府第一教育部會副議長)同上
◇中本弘錦氏(京城府會議員)同上

決戰生活はこれだ【下】

食生活に負けるな

少い材料から榮養をとる工夫

時間の嚴守、衣生活の決戰化に伴ひ食生活の決戰化を確立して斷乎として遂行しなければならぬものに『食生活の決戰化』がある極く最近まで食ふことは満腹感を抱くといふ程度に考へられてゐた、戰爭と科學は切り離すことのできない今日、これは餘りにも時代を知らない無自覺の國民の考へであるといはれても仕方があるまい戰局が進展すればするほど食糧が不足してくる現象は各國共通の事態である、これがため食生活は各國ともにあらゆる創意と工夫を凝らし

最小の材料　で榮養を攝ることにしてゐるのだ、從つて榮養に對する科學的研究が行れてゐることは當然でありこの研究の足りない國民は武力に勝つても食ふことに負け、内から崩れて行くのである

前世界大戰の直前に漸く發見されたビタミンに對し、獨逸はその重要性を充分に認識しなかつたためビタミンの不足により國民は病氣の頻發に惱み、つひに敗れたのである

また聖地エルサレムを奪還せんとして進發した遠征軍である十字軍はビタミンの缺乏により壞血病の頻發で殲滅した

戰時の例か　あるほか、ビタミンの缺乏は航海者にも多數の死者を出してゐる

一七四〇年、アンソン卿が企てた世界一周航海の際壞血病のため船員の半數以上を失つてあるこれらの壞血病は僅かでよいから新鮮な果物や野菜を攝れば豫防出來るのであるが當時の彼等にはこの知識がなかつたのである

【寫眞＝國民榮養報國聯盟で決戰獻立を聽く婦人たち】

榮養分とは　蛋白質、含水炭素、脂肪より成つてをりその作用は三つある、精力の補給と身體の成長、老廢物との交替である自動車はガソリンを燃料としてゐるが身體は榮養分を燃料とするのであり、自動車の製造と修理に主として鋼鐵を必要とするやうに身體の成長と老廢物との交替には蛋白質を必要とする

また身體の特殊な作用のためにはビタミンと鑛分を要する、例へば含水炭素を燃燒する神經や心臟、筋肉の細胞はビタミンがないと十分な勢力を得られずその結果は心臟病や神經疾患を生むのだ血を赤色にし酸素を身體中の

細胞に運ぶ　化合物を作るには鐵分が必要である、もし鐵分が不足すれば化合物が乏しくなり、貧血して顏が蒼白となり酸素の缺乏で呼吸不能となるのである

この榮養分はその人の大きさや勞働量或は發育中か否かによつてその分量を異にしてゐることはいふまでもない、自動車のガソリンの量はその大きさと活動の量によつて左右される、自動車が停止して動いてゐるときはほとんどガソリンはいらないが動かすときは多量を要するやうにビタミンも活動量に支配されるのである

これらの科學的な分析からみると今までの腹一杯になればよいといふ考へで食つてゐた者は餘りにも

食ひ過ぎて　ゐたのである、また自動車の燃料が、ガソリンから木炭やカーバイドを代用としても結構動き、間に合つてゐる

る、だから科學の進歩により食物は榮養分、ビタミン、鑛分、水分の四種類を含んでゐることを知らせてくれた

やうに榮養も工夫次第では無からでも有の榮養は攝れるのである

米を一日に三合も四合も食ふことは鳥肥の大喰ひであり、いまでは一日、千六百カロリーの主食と六十カロリーの副食物で足りることを榮養學は教へてゐる

これだけの榮養は一日米二合二、三勺を主食とし少量の

魚と野菜を　副食とすればよいのである、國民榮養報國聯盟ではこれを基礎として去る十一月から毎朝花園市場に出る魚や野菜をみて、これにより獻立を作り、買出しの婦人達へ勸話してをり、相當な成果を擧げてゐる

その實例をみると去る九日は帝場に魚はヨリが多く出て野菜はキウリが澤山出た、このほか白身の魚も出廻つてゐたのでその獻立はサヨリとキウリを取合せたり、白身の魚とキウリで『魚のキウリもみ』を作る、これで蛋白質とビタミン、この他に玉ネギも出てゐたので無機鹽類が攝れるのだ

これは從來玉ネギを煮すぎてビタミンを失つてゐたから、生で食ふやうに一こんな風に創意工夫を凝らして

毎日の獻立　を考へる場合から、食生活の決戰化は生れ榮養で充分榮養分を攝ることが出來るのである、魚の骨や内臟は捨てられてゐたが骨でも内臟からでも充分に榮養は攝れるのである

燒魚の場合身だけ食つて骨を捨ててゐたが、この骨をもう一度ポロ／＼になるまで燒き、これをフキンに包み叩き、その後をすり鉢ですり、粉にすれば、朝の味噌汁に入れると美味しくて榮養は攝れる、さらに粉になつた魚の骨をメリケン粉に交せ天ぷらの衣とすることも出來るしゴマ鹽と交ぜてもよく、出しコンブの出しがらを煮き魚の粉とゴマ鹽を交ぜるとさらによくなる

内臟は豚のやうな特殊なものと違いものは中毒の恐れがあるが新鮮なものは

野菜と煮込　めば、結構食へる、また煮込めば形が悪いとか體裁が惡いといつて捨てられてゐた内臟は「ウ」……［illegible］

見直せ"婚禮儀式"

聯盟の立派な『基準』

食生活の決戰化も新しい人生の出發である厳粛な婚禮儀式から決戰化しなければ力は弱くなる、一生に一度しか利用價値のない

花嫁衣裳　を作つてひとりよがりをするやうな者はゐる國民とはいへないだらう

またご本人は別として親兄弟が自分らの作り上げた人形でも飾るやうに着飾らせて樂しんでゐるやうな享樂主義は全く米、英的な考へ方であるといはれても仕方無いが今日の時代である

仕方無いが今日の時代である際に國民總力聯盟では『婚禮儀式基準』を制定してゐるのである、これによつて結婚、葬祭を行なはないものは立派な愛國班員とはいへないのだ、この場合でも

衣裳を貰る　百貨店や與服屋がまづ自戒すべきである、聯盟のこの婚禮儀式基準が出た後でも旧そのまゝの婚禮衣裳展覽會をやつてゐた百貨店があつたり、寫眞屋の飾窓にはまだ奥樂的な昔の婚禮寫眞が出てゐたりしてゐた、これらは餘りにも時局を知らない不屆者だ、と非難されても返す言葉があるだらうか

聯盟の改善儀禮基準によれば婚禮の際は神社、神祠で國民儀禮を加へた儀式を行ひ新郎は國民服に儀禮章を附し新婦は色無地留袖、白無地帶、名古屋帶、帶締（白丸ゲケ）履物草、襦子、草履（常用のもの）髮は島田を廢し白い花を挿すことになつてゐる半島人の新郎は平服（白衣を禁ず）に儀禮章を附し髮に花を挿してもよく面紗布を廢してゐるのである

參列者は内鮮共に男子は新郎に準じ、女子は平服に儀禮章を附せば

健康診斷書　を添へて……［illegible］

浪すな軍機　漏れるな寄留

強調週間

高橋三吉大將の講演會

十六日運動場、十七日府民館

既報＝高橋三吉大將を迎へての『海軍特別志願兵制度施記念大講演會』は十六日午後三時より京城運動場で開催するが、これに續いて十七日午後七時十五分より府民館大講堂で國民總力聯盟、朝鮮總力聯盟、總督府、朝鮮軍司令部、海軍武官府、本社及び毎新後援で大講演會を開催する、尚當日の來場者は招待券持參者に限る

丈夫な身體

であつたし、信長のやうな偉い人の婦人はいまこそ台所の決戰化を確立すべきときである

……なども徳く捨過ぎでは砂糖を使つてゐなかつた、今でも田舍では砂糖を使つてゐない家庭もあるのだ、砂糖の出廻りが悪いなどといつたり、澤山使つたりすることは贅澤千萬な話である、砂糖についてはこんな說もある

日本人に砂糖を食ふやうにしたのはユダヤの謀略であるといふのだユダヤは印度から鹽を運び印度人から抵抗力を失はせ、支那人に阿片を吸はせて、その一部を骨抜きした、こん度は

日本に砂糖　を持ち込み體位を低下させんとしてゐる、といふのである

この說の可否は別としても、とに角砂糖を食はなくとも立派にやつて行けるのである、雑草を利用したり、いまゝでかへりみなかつたものを食材料とし銃後の婦人はいまこそ台所の決戰化を確立すべきときである

金剛山登行錬成會

大東亞戰爭の秋、國民總力の集中は今日只今の急務である、本社はこの秋に際し心身を鍛へる方途として時局の要請に應へ、體力の勝ち拔く爲の國民錬成を目指し金剛山登行錬成會を組織する……

募集要項

- ゆき　六月十九日（土）二二時　京城驛發
- かへり　六月二十二日（火）六時二〇分　京城驛着
- 順路　内金剛＝長安寺＝明鏡台＝表訓寺＝萬瀑洞＝普德窟＝摩訶衍＝毘盧峯＝神溪寺＝外金剛
- 會費　金四拾八圓也（往復汽車賃、宿泊賃、食事費、自動車賃、救護費及案内人夫賃等一切）
- 定員　百名（定員次第締切）
- 申込　所定の申込書に會費を添へ京城日報社企劃部へ（御申込のこと）
- 資格者　十七歲以上五十歲までの男女

主催　京城日報社

時間を守りませう

孫聯盟厚生部長放送

寸秒こそ必勝の鍵

實踐しませう三鐵則

戰爭の優劣は寸秒を爭ひ一刻の時が生死を決する、十日"時の記念日"を迎へ朝鮮總力聯盟では孫厚生部長が午後八時から"時間を守りませう"と京城中央放送局のマイクを通じ全鮮二千五百萬愛國班員に呼びかけ銃後生活戰に一秒を活用し時間に殉ずる決戰態勢を強調した

全鮮愛國班の皆様大東亞戰爭開戰以來既に一年有半になつた御稜威の下忠誠勇武の皇軍將兵は南に北に勇戰敢闘して赫々たる戰果を收めつつあり、洵に感激に堪へざる所であるが、最近の戰局は愈々その重大であることを事實に於いて知らしめつゝあり、決して油斷は出來ぬ、一億國民は益々必勝の信念を以て團結を固くし、一大決戰へ總進軍の態勢を確立せねばならないときである、皆さん、山本元帥の戰死やアッツ島皇軍の玉碎を思ふに、我々銃後のものは到底此儘では過されぬ、更に更に覺悟を新にして見敵必殺文字通り肉彈となつて體當りを敢行する前線將兵と眞に一體となり、敵にぶつつかり是が非でも最後の勝利を獲得せねばならぬ、之が爲には飛躍的に而も迅速に戰力增強を致し、決戰必勝の態勢を確立しなければならんのである

決戰必勝態勢を確立するには今日直ちに銃後國民が一齊に決戰生活に入らねばならぬ、家庭も職場も戰場として一切の仕事を片付けて行かねばならぬ、お互に日常實踐躬行せねばならない事柄は益々多くなつて參るが之を手廻し良く迅速に人に後れず處理して行くには先づ何よりも時間の生活を正しくせねばならないと思ふ、本月の愛國班の申合せ事項が時間を尊重し、定時を嚴守しませうと云ふのであり又本日は時の記念日であるので今夜の常會は實に意義深い常會である、そこで私は之から今少し時間生活に就いて御話したいと思ふ

第一は時計の正確といふことであり又正確な時間の觀念を持つといふことである、時間を充分利用し時間の約束を嚴守するには先づ正確な時間を知らねばならぬ、五分十分、時には卅分一時間と時計を遲はしてゐる家があるが隣りの家ではそれを知らせるやうなものであるし、又家の者も正確な時間を知るのは苦勞せねばならぬ等は寧ろ滑稽である、又仕事をするにも旅行するのにも正確な時間の觀念がないならば一切の豫定と云ふものは付かぬ

決戰生活は『無駄なし生活』である、無駄をなくすることは正確な時間の觀念がなくては不可能である、家事を初め何れの仕事にしても手廻しの良い仕事師は正しい時間の使ひ手である、決戰は時間の使ひ方の上手な方が勝ちだ、ハワイの空襲はどうか、米國ではもう四分早く知つたならあんな慘敗はしなかつたのだと言つて居るではないか、眞に必勝は分秒の爭ひである、正しい時計と正しい時間の觀念は必勝の武器と心得ねばならぬ

第二には生活を規則正しくし、時間の活用に努むることである規則正しい生活を營むには毎日可成るべく時間割を豫定し、執務、勞働運動、娛樂、社交、休養、睡眠等に對し適當に時間を割當て出來るだけ有效に活用することに努めねばならぬ、一般の家庭は勿論特に農家では殆ど時間の觀念がなく只だらだらと働いて居るため仕事に緊張味を缺き、能率が擧らない現狀であつて大いに改善の要がある、今後は是非とも時間の觀念を植付けて能率增進を圖り食糧其の他の增產に邁進されるやう希望する

第三には集會の時刻は必ず嚴守することである、從來都鄙を問はず集會の時刻を勵行しないのが通例の樣になつて居る、之はお互が時間尊重の觀念が乏しいのと他人の迷惑を何んとも思はないところから來たやうにも考へられるが一方主催者側の遲刻から來た弊風である、内地では昔から『待つ身になるな』と云ふことを云つて居るが待たされる程つまらぬ無駄なことはない、然も決戰下の今日こんなことを續けていつてはならない、集會等では思ひ切つて定刻を嚴守して開會し從來の惰性を斷然打破したいものだと思ふ

本間將軍の和歌

比島人が作曲

【東京電話】死鬪四ケ月バタアン半島攻略なり、硝煙未だ漂ふ密林の陣中で前比島陸軍最高指揮官本間雅晴中將がものした和歌

かくありて許さるべきや密林の木蔭に消えし友など思へば

は『密林の木蔭に消えた』將兵に思ひを馳せた切々たる陣中句である、このほどこの歌が著名な比島人作曲家フェリペデレオン氏の手により作曲され、十二日午後四時マニラホテルでその發表會が開催されるといふ、なほ現地報道部では當日この曲を錄音して本間將軍に贈呈する

學生機甲訓練始る

機械化國防協會朝鮮本部主催、第十一回學生機甲訓練は十日午後五時から未來の機械化戰士目指して馳せ參じた府内大學、專門學生より選拔された八十名に對し倭城台恩賜科學館において開始した

朝鮮樂劇團歸る

【釜山電話】去る一月末上京以來東京、名古屋、大阪を巡廻公演し半島文化の宣傳につとめた朝鮮樂劇團一行六十餘名は九日約半歲ぶりに歸鮮、十日から十二日まで三日間釜山公會堂で本社慶南支局後援の下に特別公演を行び在釜勇士ならびに府内戰歿勇士遺家族、傷痍軍人を招待慰安することになつた

朝香少佐宮殿下

飛行學校御入校

【東京電話】陸軍少佐朝香宮孚彦王殿下には今般特別の思召をもつて飛行機操縱術御習得のため一學生の御資格にて宇都宮陸軍飛行學校に御入校遊ばさることになつた、金枝玉葉の尊き御身をもつて、かつは佐官として御要職にあらせられる御年齡にて、年少の學生々徒の間に伍し御自ら操縱桿を御手に飛行機操縱の根本を究めさせ給ふことは陸軍として全くはじめてゝあり學校長加藤敏雄大佐以下教育關係者はもとより全軍航空部隊將兵はこの光榮に感激申上げてゐる

曉の勅諭奉誦

初めて知る煙草の味

【村岡本社特派員（朝鮮軍報道班員）記】身體のどこかに鉛を嚥んでゐるやうな重い疲勞に攻められながらも神經がひどく昂ぶつてゐるためか、不寢番の"起床ツ！"の聲をまたず、多くの誰もが固い板の間の寢床の上に眼覺めてゐる

だ肌にうすら寒さを感じさせる、颯々と冷氣が肌に喰ひ込む、半島出身の報道班員たちは、特にかうした軍隊生活の空氣に物馴れず総てが珍奇なものとして腦裡に刻み込まれてゆく、こゝの兵舍生活は兵營と異つて野戰の駐屯生活に近いだけに、餘計に強い刺戟を叩きつける

しかしこゝは　嚴しい規律に支配されてゐるため五時半の起床時限が來るまでは起き拔けて勝手に洗面したり、煙草を喫ふことは許されない、六月の聲をきくと言ふのに、こゝ青龍高原の兵舍の朝はまだ

"起床の"號音は　かゝつた百米の短距離競爭の出發點を飛び出すやうな勢ひで全員がポツクリと跳ね起きた、班長の號令一下、窓を開き皆んな素ツ裸になり固くタオルを握つて足の先から心臟へ向つてエッサ／＼の掛聲も勇壯に全身乾布摩擦だ、隆起する肉體が見る／＼うちに紅に染まる、擦り了へて戰友同志相扶けて毛布を疊み舍内の整頓だ

この間僅か五分の早業作業だ、それが終るか終らぬうちに舍前の廣場に飛び出して整列、嚴肅なる朝の行事である點呼が始まる、元氣一杯の番號呼稱、日直上官の班員の健康狀態その他の點檢あつて、東方を遙拜、軍報道部中川大尉の先唱で軍人に賜はりたる勅諭の奉誦に心氣冴え身内にムク／＼と緊張感が迫る

點呼が終ると　班員は直ぐ足の號令で兵舍裏の小高い山頂めがけて一齊に駈けつける、小松林が頰を刺す、ジットリと露を置いた芝草が褌を濡らす、ゼイゼイと息をきらして山頂を目がける班員は昨日の行軍でボキ／＼と傷む骨の節々を抑へ玉の汗して亂れてなるものかと懸命の登攀だ、山頂に辿りついた深い綠の平原が視野を展け朝のしじまに冷氣が汗の肌をすが／＼しく刷く誰も聲をのんで快哉にひたる、見はるかす平原の草に埋もれた小道を子供たちが一列を組み軍歌をうたつて進んで來る、早朝部落を發つて四粁もあるであらう國民學校への登校だ、澄みきつた邪心をとどめぬ聲、何物にも濁らぬ童心發露の元氣な聲は"步兵の本領"の軍歌で前半列の先頭を後半列が反誦してゆく、僅か廿名たらずの列だが軍隊の軍歌行進にも劣らぬ生々とした發刺さは班員たちの胸を強く搏つ

この子供たち　はやがて明日皇國の國防線を擔つて敵殲滅の興戰の庭に立ち、そして大東亞の指導民族として雄々しく活躍するのだ―半島出身の班員たちは胸を締めつけられるやうな感激と昂奮にしばらくは默念して、子供の軍歌に耳を傾け聽き入れた

遲れてはゐなかつた―と鋭く内省するのだつた、朝の大氣を肺腑一杯に呼吸して斥候二名を先遣、山頂から兵舍に駈け下り、炊事當番の配膳に"頂きます"の挨拶で一碗の汁、一菜に腹鼓して、嚴正な規律のなかに釀される樂しさと喜びを初めて知るのだつた、食事が終つて初めて喫ふ煙草、これまで氣儘に勝手な時に喫へた煙草の味に較べて何と美味しいことか、煙草の味に驚きを覺えるとゝもに、これから嚴しい訓練が班員たちの前に橫たはつてゐる

寫眞＝山頂に駈足登攀（上）―森川本社特派員（朝鮮軍報道班員）と味ふ朝食のうまさ―白川朝鮮軍報道班員撮影

初代の七區長決る
町の父にかける期待

京城府の懸案行政機構の強化によつて十日午前十時一齊に七區役所の開廳式を擧行、午後には初代區長及び各課長の顔ぶれが發表になつたが、その經歷、人格、識見ともに"われらが町の父"として申分なく府民はこの新指導者に多大の期待をかけてゐる

▲中區＝區長、笠井一男氏(府理事官)副區長、湯山清一氏(府主事)總務課長(秋野勝三郎氏)(府主事)戸籍兵務課長、原島政夫氏(府書記)財務課長、綾居隆□氏(府主事)工營課長、伏原通夫氏(府技手)

▲鍾路區＝區長、黑木彌喜平氏(府理事官)總務課長、桂□□□氏(府屬)戸籍兵務課長、□井俊雄氏(府書記)財務課長、金武宇氏(府主事)工營課長、杉田勝衛氏(府技師)

▲東大門區＝區長、宮將□氏(府理事官)總務課長、二階堂行茂氏(府主事)戸籍兵務課長、大塚深氏(府書記)財務課長、大原大□氏(府主事)工營課長、山口一郎氏(府技手)

▲城東區＝區長、市木□□氏(府理事官)總務課長、寺田章氏(府主事)戸籍兵務課長、鈴木承龍氏(府屬)財務課長、勝尾晉治氏(府主事)工營課長、小林繁次氏(府技手)

▲西大門區＝區長、三和卓氏(府理事官)總務課長、家入傳氏(府主事)戸籍兵務課長、德原一郎氏(府書記)財務課長、松田隆繁氏(府主事)工營課長、駒山繁八氏(府技手)

▲龍山區＝區長福島二□氏(府理事官)總務課長、川口信吾氏(府主事)戸籍兵務課長、德丸謙防氏(府書記)財務課長、岩本榮次氏(府主事)工營課長、相川鎮超氏(府技師)

▲永登浦區＝區長、福澤重臣氏(府理事官)總務課長、金古鼎成氏(府主事)戸籍兵務課長、伊原相稷氏(府書記)財務課長、海岡辰雄氏(府主事)工營課長、兵頭久男氏(府技手)

府政翼賛に邁進せん
初代鍾路區長黑木さん語る

京城府多年の懸案であつた區制は昨十日から新發足した、この區制實施に伴ひ、府内七區役所は府理事官から選拔された、新しい區長を迎へ百廿萬府民は府政振興の決意を固めたが、全北全州府から一躍鍾路區の初代區長として登場した黑木彌喜平氏は十日就任の辯を次のやうに語る

なにしろ京城は初めのことで府…廿萬大京城府民に課せられた責務は大なるものがあると思ふ、特に徴兵制を明十九年度に控へた半島同胞の戸籍整備、兵務處理等の廣範圍に亘る國家的重責が負はれた、區としては、ひたすら劃期的の行政施策に順應して各自持場に精勵、その任務を全うせねばならぬ、この意味から半島人の密集地帶を擁する我が鍾路區役所は他に比して、その指導性の強化に努力せねばならぬと思ふ、今後とも淺學非才の身に鞭打つて延び行く大京城府政の翼賛に邁進する覺悟である【寫眞＝黑木區長】

永登浦署の闇一件

府内新水町三五七李明允(三七)は鹽漬エビ公定價格一升四十錢のものを八十五錢乃至九十錢で販賣してゐるのを、この程永登浦署員に現認され、目下取調中であるが、買手の殆どが超過價格であることを知らず商人のいふまゝに高い値段で買入れる傾向があるので、主婦たる者は日常生活必需品の公定價格位は覺へて欲しいと當局では希望してゐる

◇

最近蔬菜類がふんだんに出廻るのにも拘らず一部の業者間には不正販賣が行はれてゐるので永登浦署經濟係では石川主任以下係員が總動員、一齊取締を實施したところ取締件數百五十五件のうち違反は案外少く定商三名、露店五名、行商四名計十二名を槍玉に上げたが從來の如く量目をごまかす者は殆どなくその代り價格表示をせずそれ〲超過價格で販賣したことが判明、十名は即決に廻し二名は十日一件書類と共に送局した

佳話あり街の防空陣

昌成町三八四、田中銀女さん(三□)は家族四人を連れて細々とその日を暮してゐながらも昌成東町六組二班の監視員として率先愛國班任務に挺身しよく監視、指導の責任を完うして來たが、苛烈を極める征戰下、防空用ポンプのない自己班のことが氣になつて『イザ、有事の際消火ポンプ一つ位無いと困るでせうから』とけふまでコツコツと貯へて來た二百二十圓を捧げて一台を購入、このほど同町警防團に寄贈、天晴れ銃後女性の意氣を揚めた／

右新内務課長笠井氏、左舊田中課長

去るのが心殘り
府内務課長田中さんの辯

京城府内務課長田中俊輔氏は十日附總督府司政局勤務となつた、田中さんは昭和十五年十月元内務局(司政局)から京城府内務課長に轉じて以來滿二年と九ケ月、その間支那事變から大東亞戰争へと日を逐うて多端を極める時局ふ府民の第一線陣頭に立つて全く夜を日に繼ぐ多忙中に自ら飛び込み、持前の強靭性を發揮して熱と力に物言はせて如何なる難問題をもてきぱき處理して行つた、就任早々ぶつかつたのは府の機構改革による經濟、防護、兵事課の新設次いで監査課の廢止、調査室の設置、引續き府政調査會の新設、更に今年に入つてからは町會機構の整備改革、近くは府會選擧、劃期的な府の區制實施等躍進途上の府政に多大の功績を殘した、發令の十日課長室に田中さんを訪へば"京城府の勤めは火の出るやうな修鍊道場であつたが、それだけに終生忘れられない懷しい體驗となつた"と次ぎのやうに語る

色々と問題もあつたが漸く軌道に乘つてこれからと云ふ矢先に發令されたのは非常に心殘りでもあり、これと云ふ仕事も出來なかつたことを返すぐも殘念に思ひます、幸ひ府民の絶大なる協力と上司の愛護を蒙り常に愉快に氣持よく無事にお勤め出來たことを心から感謝してゐます役人生活は今後何府迄續くか解りませんが京城府のお勤めは私の一世忘ることの出來ない思出になるでせう、司政局は私にとつて古巣に歸へるやうなものだし仕事の上からも若い經驗を得たと思ひます、轉任したと云つても本府ですから今後共府民の御指導を願ひます

宣傳、情報の確立
區制に伴ひ府廳機構を改正

昨年十月、府廳の機構改正に伴ふ經濟課の創設と共に稻垣國民總力課長は經濟課長を兼務して來たがこのたび區制の實施に伴ふ一部機構の改正に當り十日附で小野寺總務係長は多年府政進展に挺身した功績、力腕が認められ、國民總力課長に拔擢された、なほ總力課には情報係を新設、その一代目の係長には奥山仙三氏(前總力聯盟企劃課長)が就任、情報宣傳の事務を確立することとなつた、これら府政の諸種重要懸案の解決に功績を樹てた古市府尹を訪へば、次ぎのやうに語つた

◇…區制實施の主眼は府民の總力結集にある、從つて圓熟且つ括氣ある人物を區長に推したが專任區長が五名で中區は府内務課長、東大門區は府經務課長が各々兼任になつた、兼任區長は事務統化のため實質上の權限を有する副區長を一人づつおくことにした

◇…東大門區は當分は空席だがその内決定する、中區は事務所も本廳内にある關係上府尹、總務部長直轄の積りで區政を行ふ、また情報係を新設し情報宣傳の事務を確立、且つ上意下達、下情上通を有効適切に處理し百廿萬府民各位の據ふべき所を傳へることにし奥山聯盟企劃課長を府囑託にして初代係長に任じたなほ聯盟常任理事は兼務である

今後 新聞記事は 主に同係でまとめて發表する、總力府聯盟理事も既に任期滿了したので近々新陳代謝を行ひ、新制度に協力して貰ふつもりだ、要する新制實施後は、府は企劃と統制を行ひ、區役所が實務を執り行ふやうになるだらう

陸海軍へ恤兵金

竹添町三ノ五一七金山竹齊、同職夫妻は結婚六十年を記念し陸、海軍に恤兵金として各三千圓、竹添町第二町會、同養老院、西大門署に各千圓、京城府に千圓、方面事業の一部として計一萬圓を大詔奉戴日の八日それ〲獻金した

京城府七區略圖

鮮展 晴れの特選 紙上展覽 8

"女の兒達" 根津莊一氏

東洋畫

鮮展第二部(洋畫)に"女の兒達"を出品無鑑査特選を受けた明倫町二ノ一六一根津莊一氏は京城師範學校卒業、昭和十六年東京高等師範研究科出身、現在京城青葉國民學校教員である、鮮展特選は昭和十三年を初めに今年で五回目、文展、陸軍美術展、銃後美術展にそれぞれ入選してゐる、教へ子達が校舍を丹念に掃除する素直な勤勞美を描いたもので初夏の朗らかな陽光を浴び嬉々として窓を拭く女兒達の姿は溌剌と明るさに滿ち溢れ、會場の人氣を呼んでゐる、同氏は自宅でその喜びを次のやうに語つた

明るく伸びてゆく子供達の輝い勤勞美を捉へたのですが、私の從來の作品から見ると美といふものを非常に暗い色調で扱つたうらみがあるので今回の作品は思ひ切り明快な健康的な作品に仕上げるのに苦心した、そして從來の暗さを僅かでも脱し得たのではないかと思ふ、これからの作品もどし〲明るさを求めて行きたいと考へてゐる【寫眞＝根津莊一氏】

半島縮刷版

砂糖で貯金が出來ます

【黄州】一錢でも早く敵を屠滅するには銃後の國民が一錢たりとも餘計に預金をしなければならないと黄州郡聯盟では郵便局と緊密な連絡の下に毎月愛國班員に配給する砂糖一斤に付廿五錢分の貯蓄債券を添付加算させ配給を行ふことになつた、一般受給者は配給の際からもらつた廿五錢の債券を郵便局へ差出せばこの砂糖貯金に限り五ケ年据置で預かつてくれる

洋藥を一擲漢藥へ

【平壤】東洋民族にとつては昔から重寶がられてゐた漢藥が近年洋藥から壓倒されて、次第に衰頽の一途を辿り、半島でも辛うじてその命脈を保つてゐるに過ぎなかつた、支那事變勃發して漸くその重要性が再認識され大東亞戰争下の今日洋藥の全面的輸入杜絶に相俟つて再び漢藥増産への叫び聲が高まり、平壤府では早くからこの漢藥増産に着目し生産組合を設立し昨秋以來幾多の惡條件を見事に克服し活潑な生産活動を展開し本年三月末まで六ケ月間における總輸出へ斡旋した數量は實に四萬貫に達し道内の記録を破り豫想以上の好成績を收めた

春鰊大量市場へ

【欲知】生産擴充秋、欲知近海の春鰊は時度よい潮加減と續く好天候に惠まれて廿年來の記録を破つて全鰊網及び抄網は連日滿船に滿船、全魚鹽の海と化し一寸の餘地も餘すところなくイリコで占領、今度は仕末に困るといふ増産朗報で五月下旬までに日に平均五千圓を突破、下り鰊までには平均一萬圓の水揚げが豫想されてゐる

冠帽峰登山隊編成

【羅南】白頭、冠帽などの嶺峰は體力増強の道場だ、景勝探訪や趣味の登山は昔のこと、登山は專ら精神の錬成に集中しなければならぬと、昨秋來鈴木山林課長を團長に山岳登行團を結成したが、七月中旬を期して冠帽峰登行を開始する

早生桃が近く登場

【羅州】郡本年の果實は昨年の旱害に鑑み業者が栽培に最善の努力を拂つたので好天候も手傳ひ見事な出來榮えで本月中旬には全鮮に魁けて羅州名産の早生桃が個數と市場に登場、續いてこれまた名産の早生林檎、葡萄などが出盛り初夏の味覺を唆る

集團桑園成績良好

【清州】報恩郡では過ぐる十五年紀元二千六百年記念事業として報恩面山城里に桑苗五萬本を附近農家に無償で配布集團桑園を作らせたところ繁榮える國と共に桑木も隆々と發育を遂げ、滿三年を經過した今日では一本からの桑葉も優に一貫五百匁、百本で一枚の飼が出來ると當局も桑園主も大喜び

この桑園は株間六尺、畦間卅尺の疎刈仕立で麥の間作も出來食糧増産にも十分な役を果し、附近では模範桑園としてこれを推してゐる

あす締切
皇軍慰問 獻納寫眞撮影大會

第一線に敢鬪する朝鮮部隊將兵のため奮つて參加ありたし

十三日(日)午前九時半迄城東驛集合、モデル 朝鮮映畫出演女優、詳細は八日附本紙參照のこと

主催本社・朝映

ラヂオ 11日

朝 六・三〇大原總督の閱事改良 大西伍一 〇・三〇バイオリン獨奏、ピアノ獨奏▲一・〇〇長唄(レコード)伊達正宗▲二・三〇(城)軍人に賜りたる勅諭 講解

夜 六・三〇(城)時局講話 …▲七・五〇…▲八・〇〇…▲九・〇〇(城)…の番組發表(朝鮮語)

大いなる祭【156】
中野實(作) 三芳悌吉(繪)

復讐(二)

さきに、香港から飛行機で上海へ飛來した歐大慶は、その後、南京政府の要人とも意見を開陳し合ひ、過去の一切の行きがかりをすてゝ、國民政府に協力を誓つたのだつた。

『判りました。歐氏をとりまく若い連中の一派が、われ〱の味方になつてくれるとしたら、これほど心強いことはありません』

川面を流れてくる微風を井關は睫毛にとめながら、

『しかし、さうなると、なほ一層歐大慶氏に自重を望まなければならないし、彼の身邊を警戒しなければいけない』

『あたしもさう思ひます』

美々ははつきりとさういつて、しばらく言葉もなく、彼のあとについて來たが、思ひ切つたやうに顏をあげて。

『井關先生』

と、呼びかけた。

『なんです』

『あなたは、あたしに、上海へ着いたらあたしに自由な行動をとつてもいゝと仰有いましたわね』

『いひました』

『それはどういふ意味でせう』

『どういふ意味つて』

『いゝえ、あたしに、今の仕事をしないでもいゝといふ意味でせうか。もつとハツキリ云へば、私はあなたの同志でないと宣言されたと思つていゝのでせうか』

『美々さん』

と、井關は靜かに云つた。

『さうぢやあない。僕はすこし君を休ませてあげたかつたのだ。といふのは君は、數年前まで、この上海にゐて、相當顏を知られてゐる。君が現在われ〱の仕事を手傳つてゐると知つたら、重慶の奴等は、默つて君をほつてはおくまいと思ふ。しばらく、上海の最近の樣子が判るまで、君はわれ〱と近づかない方がいゝと思つたからだ』

『それは判りますわ』

美々は面を伏せてゐたが、

『でも』

と、急に眉宇をひらいて、

『あたし、今度この上海へかへつて來て、今までより、もつともつと働きたいと思つたんですわ。いえ、たとへ、井關先生の仕事を直接お手傳ひ出來なくても、あたし一人で新中國のためにはたらく、いえ、國のためなど、いふより、あたし、一人のためにやらうと決心したんです』

『君一人のため……』

『さうですわ。上海は、あたしにとつて、決して忘れることの出來ない土地なんですもの』

『君の御主人の李敏が暗殺された土地といふ意味かね』

『さうですわ。あたし、復讐しますわ』

『復讐……』

『さうです。先生が直接、あたしを指導して下さらなくても、あたしは、復讐でこゝろが一ぱいなんです』

美しい切れ長な瞳は忿怒に引裂かれさうに見える。

井關は、それに應へなかつた。便りがあり次第、朝鮮へ行かなければならないので、歸つてくるまで、嚴密して、なるべく自重するやうに、彼女に注意を與へて、井關は宿へ引揚げて行つた。

井關と別れて、逆行し北京路へ來た時であつた。

『美々ぢやあないか』

と、向うからすれ違つた男が、いきなり彼女に聲をかけた。

登記公告